



第 2 4 号
令和 2 年 1 月 7 日
岩手県長寿社会課

地域貢献・社会参加×介護予防の取り組み

八幡平市介護支援ボランティアポイント モデル事業 の巻

高齢者一人ひとりの生きがいつくりや自己実現のための活動、社会参加を支援することは、日常生活の活動を高め、介護予防を推進していく上で大切です。

八幡平市では、地域支援事業（一般介護予防事業）を活用した「介護支援ボランティアポイントモデル事業」を昨年 4 月から実施しています。今回は、**モデル事業の内容・取組状況**について、事業に関わる皆さんの声からお伝えします。

「介護支援ボランティアポイント事業」とは

「**八幡平市介護支援ボランティアポイントモデル事業**」は、65 歳以上の市民の方が高齢者宅や介護保険施設等でボランティア活動を行った場合に、八幡平市共通商品券に交換できるポイントを活動実績に応じて付与する事業です。高齢者が介護支援ボランティア活動を通して、**地域貢献や社会参加**を行うことにより、心身の健康を保ち、介護予防につなげていくことを主な目的としています。現在は、地域を限定して実施しています。今後、事業の課題等を検証し、整理したうえで本事業化する予定のため、モデル事業としています。

令和元年 11 月 19 日、取材班は、八幡平市役所にお邪魔し、八幡平市健康福祉課、ボランティア活動先の施設、そしてボランティア活動参加者の皆様からお話を伺いました。



左から、社会福祉法人みちのく協会の藤澤俊樹さん、松尾デイサービスセンターの高橋栄子さん、特別養護老人ホーム富士見荘の遠藤芳子さん、ボランティア活動参加者の伊藤留男さん、八幡平市役所健康福祉課課長補佐の工藤千歳さん

活動の概要

はじめに、八幡平市健康福祉課課長補佐の工藤千歳さんより活動の概要についてお話を伺いました。

① ボランティア活動の内容

活動内容は、利用者や施設側のニーズによって様々ですが、介護保険施設等では主にレクリエーションの手伝いや草取り、草花の手入れ、お茶出し・配膳・下膳の手伝い、散歩・移動の介助などを行ってもらっています。また、ボランティア活動者の趣味や特技を生かして作品づくりの指導をしてもらうこともあります。

高齢者宅では、主に傾聴を行ってもらっています。家庭ごみのごみ出しや草取り、買い物や病院への付き添いも想定しています。

現在の活動場所は、高齢者宅 1 世帯と、特別養護老人ホーム・デイサービス等 6 事業所となっています。

② ボランティア

活動を希望される方には、安心してボランティア活動を始めていただくために、ボランティアポイントモデル事業に関することや、ボランティア活動の心構えについて、研修を受講いただいた上で登録をお願いしています。登録者は 10 月末時点で **29 人**（うち最低 1 回活動を行った方は 22 名）で、65 歳から **上は 80 歳の方まで活動**しています。

マッチングについては、活動したい施設へボランティアの皆さんからお電話いただく形を基本としておりますが、施設側から声をかけてくれると嬉しいとの声が多かったので、情報提供の了解を得た上で、施設側から連絡を取ってもらう場合が多くなっています。



ポイントはボランティアポイント手帳によって管理しています。1 時間の活動で 1 ポイント（100 円分）が付与され、1 日 2 ポイント、全部で 50 ポイントまで貯めることができます。活動の頻度は様々ですが、50 ポイント（満点）となった方も複数名います。貯まったポイントは市の共通商品券と交換することができます。

活動中のボランティアの声

次に、ボランティア活動を行っている伊藤留男さんからご自身の活動について伺いました。

① 活動内容

現在三つの事業所でボランティア活動を行っています。場所によって内容は様々ですが、ベッドの片付け、お茶出し、ホールの清掃、買い物の付き添いなどから、麻雀など利用者の方の**趣味の相手**もしています。**カラオケが得意**なので、施設行事で歌ったりもしています。最初は少し固い雰囲気でしたが、回を重ねるごとに一緒に歌ってくれたりして、楽しんでくれていると感じています。

月に 8~10 回くらい活動をしているのでポイントカードは上限に達しましたが、今後も活動を続けたいです。

② 活動を始めたきっかけ

以前、会社に勤めていた時の親友が、目の不自由な方の手伝いをしていたので、福祉の仕事に関心がありました。退職後に福祉施設に勤めようとも考えましたが体力面の不安から断念してしまいました。八幡平市の制度を知り、活動したいと思いました。

③ やってよかったこと

皆さんに喜んでもらえることがうれしいし、逆に元気をもらい、**生きがい**にもなっています。活動では、カラオケなど**特技を生かせる**場面があることもうれしいです。

麻雀を一緒にする方は**同世代**で、心の通じ合う、なんでも話せるような**仲間**になっています。

ボランティア活動先の施設職員の声

活動先である特別養護老人ホーム富士見荘の遠藤芳子さん、松尾デイサービスセンターの高橋栄子さんからもお話を伺いました。

○ 活動内容と効果

施設行事の内容は、ボランティアの方に入っていただくことによって、より良いものになっていると感じています。例えば、定期的に開催している買い物行事では、職員 1 人で 3~4 人くらいの利用者をお連れして買い物に行くのですが、職員は利用者の生活や好みが大体分かっているのですぐに決めて「こういうのでいいね」となってしまうがちです。これに対して、ボランティアの方は、職員とは違う目線で、利用者により近い年代ということもあり、お話をしながらどういうものか一緒に考えてくれます。利用者にも、迷いながらも**ものを吟味する楽しみ**が生まれ、とてもありがたいです。

また、散歩の付き添いをしていただくこともあります。「昔はこころへんに〇〇があったね」など世間話をしながら散歩できることは、**利用者と年齢の近いボランティアの方**ならではの、利用者の皆さんからも好評です。

利用者の皆さんの**笑顔や言葉が増えた**ことも印象的です。施設職員や利用者同士を家族とすると、ボランティアの方が来てくださるのは**ご近所さんが遊びに来てくれる**感覚のようです。利用者にとって**待つ楽しみ**ができることもありがたいことだと思います。

施設職員にとっては、ボランティアの方から施設の印象・雰囲気などお話しいただくこともあり、気づきのきっかけにもなっています。外部からお越しいただくので、気も引き締まります。

介護支援ボランティアポイントモデル事業の今後のあり方について

皆さんの考える事業の今後についてもお聞きしました。

(八幡平市健康福祉課 工藤千歳さん)

在宅の方々への支援について、今はまだ1世帯のみの実施にとどまっているので広がっていきたいです。また、現在はモデル事業として一部の地域での実施となっていますが、**他の地域からも早くやって欲しいとの声**をいただいています。事業の効果等を検証した上で、将来的に事業区域を広げていければと思います。

(ボランティア活動者 伊藤留男さん)

特技を生かした活動をさせてもらっていることが大変やりがいとなっているので、ボランティアの個性を生かすことはとても大事だと思います。今後も活動を続けていきたいです。

(ボランティア活動先の施設職員 遠藤芳子さん、高橋栄子さん)

ボランティアの方々の知識・経験の豊富さを活用させていただければ、施設側にとってもありがたいことだと思います。

また、ボランティアの方々にとっては、**地域の施設についてどんな施設なのか知っていただく機会**にもなるのではないのでしょうか。将来、施設を選ぶ際の参考にもなるかもしれません。

～編集後記～

「ちいきで包む第24号」をご覧いただきありがとうございます。今回は八幡平市の介護支援ボランティアポイントモデル事業の内容について、事業に関わる皆様からお話を伺い、紹介させていただきました。取材に御協力いただきました皆様には、この場を借りて改めて感謝申し上げます。今回取り上げた事業のキーパーソンである皆様と直接お会いし、皆様の明るさと力強さに驚きました。そのお人柄が事業の推進力となっているように感じました。

介護予防を主な目的としている事業とのことでしたが、それ以外にもボランティア活動者、施設双方にとって様々なメリットがあるようです。今回お話を伺ったボランティアの伊藤さんは、活動が生きがいとなっていると話されていました。介護予防であると同時に社会貢献活動でもあることで、ご本人にとって**生きがいづくりの場**ともなっていることがこの事業の一つの良さであると思います。

また、施設利用者が社会とのつながりを感じることができており、施設職員も施設や自分自身について見つめ直すきっかけになっているほか、地域の方にとっては施設について知る機会にもなるというお話もありました。ボランティアを受け入れることは**地域のつながり**を生み、開かれた施設づくりを促進する効果もあるのかもしれない。

全体を通して、皆さんのお話の中では、個性や特技を大切にしたいという内容の発言も多く聞かれました。地域にお住まいの高齢者の皆さんは、豊富な経験や知識をお持ちですが、なによりお一人おひとりが違った個性や特技を持っていらっしゃいます。それぞれ自分に合った形で、**自分らしく活動できる選択肢**が地域に増えることは非常に重要であると感じ、様々な介護予防・社会参加の形を考え続けることが大切だと思いました(た)。

がんばる地域の情報、大募集！

「ちいきで包む」編集部では、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域ぐるみで高齢者を支える特色ある取組などを募集しています。下記まで情報をお寄せください。

「ちいきで包む」は、岩手県内市町村の地域包括ケアシステム構築をアシストするため、各地の特色ある取組や、関係する情報を発信する情報紙です。

企画・発行（問合せ先）

岩手県保健福祉部長寿社会課（本号担当：田中・加藤） 令和2年1月7日発行

TEL:019-629-5436 FAX:019-629-5439 E-mail:AD0005@pref.iwate.jp